

あおい幼稚園 自己評価 (令和3年度)

評価の基準、は、「A:他の保育者に指導できる、B:自らの力で出来る、C:指導されれば出来る、D:まだ出来ていない」という、自分個人の能力だけではなく、園の中での自分の果たすべき役割を意識した基準となっている。

- A:他の保育者に指導できる 3ポイント
- B:自らの力で出来る 2ポイント
- C:指導されれば出来る 1ポイント
- D:まだ出来ていない 0ポイント

として配点し、1人の満点を30点として全体の達成率を算出した。

職員自己評価 総評

- 昨年度に比べ15項目中11項目の達成率がダウンし、4項目がアップしているが、昨年度に比べ10%以上差がある項目はなく、昨年度と同じような形のグラフとなった。
- 令和3年度に引き続き、で新型コロナウイルス感染症対策のため、行事の変更、日々の活動の見直しを行いながらの活動となった。日々の保育の中での感染症対策（手洗い、消毒、飲食の際の注意など）については、比較的スムーズに行えるようになってきた。しかし、日々変わる感染状況の中の、音感、合唱、今までならば行えた遊びなど、活動は思うように進められなかった。
- 参観、懇談などがなかなかできず、子ども達の様子を伝えることが難しかったが、ゆめねっとの活用によって、写真付きで日々の保育を伝えるよう心掛けた。参観などが出来ないからこそ、日々の子ども達の様子、成長をどのように伝えるか、どうすれば伝わるのか、常に悩みながら、考えながら活動したが、保護者によって受け取り方、伝わり方も様々なので、今後も伝え方を工夫していきたい。
- 気になる子ども、障がい児保育の必要性が増し、当園でも個別に対応が必要となる園児が毎年在籍している。そのため、少しずつではあるが、理解が深まってきている。今後も、研修、関連施設との連携を積極的に行っていきたい。
- 制限のある状況の中でも、子ども達の成長のために必要な保育、活動について話し合いながら進めてきた1年だった。令和4年度は感染状況を見ながら、できる限り活動を広げ、保護者と成長を喜び合えるような1年にしたい。

園長・主任評価 総評

園長・主任評価の中で職員自己評価の達成度と評価が大幅に分かれる項目は、「⑤職場内の課題に対し、自らが主体的に行動して問題解決に導いているか」「⑬保護者との間で適切なコミュニケーションを行えているか」だった。

上記以外の項目については、職員の自己評価と同等、もしくはそれ以上の評価だった。

「⑦子ども一人ひとりに対応できる保育を行っているか」「⑩集団感染防止のために必要な対策を熟知し、行動に反映できているか」「⑪遊具・玩具などの安全管理が行き届いた保育を行っているか」については、園長・主任の評価が特に高かった。

個人において、自己評価より園長・主任の評価が低い項目については、自覚を促したいが、逆に評価が高い項目については自信を深めてもらいたい。

⑤職場内の課題に対し、自らが主体的に行動して問題解決に導いているか

職員 67% 園長主任 53%

個人差はあるものの、自分の職分はここまで。(パートだから、正規だから、担当のクラスではないから・・・)という場合と、自分の役割で精一杯という場合に分かれている。自分の職分で線引きをしてしまう職員については、その意識を取り払い、園全体を良くしていくために自ら行動しようという考えになれるよう、研修、ミーティングの内容を工夫していきたい。

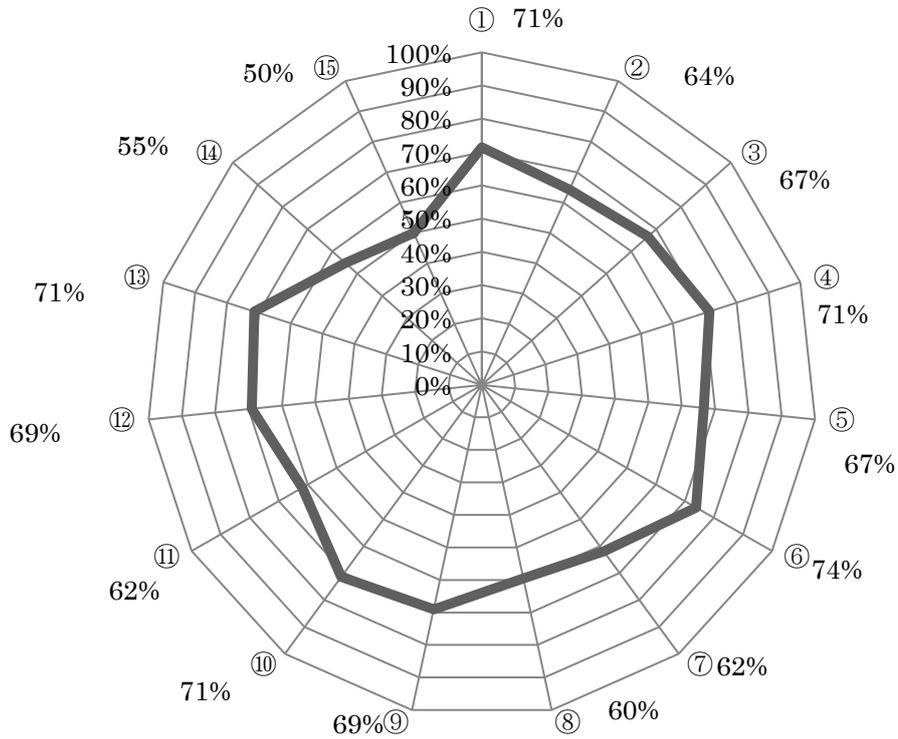
経験の浅い職員は、自分の役割(担任、職務分掌)で精一杯になりがちだが、心にゆとりが持てるよう、園長、主任を始めとした経験のある職員がサポートし、全体を考えられるよう育てたい。

⑬保護者との間で適切なコミュニケーションを行えているか 職員 71% 園長主任 53%

職員の自己評価総評でも触れたが、コロナ渦だからこそ、日々の子どもの様子、成長をどのように伝えるか、どうすれば伝わるのか、を個々の職員が考えながら活動してきたため、職員の評価は高くなっている。しかし、園長、主任の立場で少し客観的に見たときに、コミュニケーションが充分だとは言えないという結果となった。

「こう言って伝えたから大丈夫」で終わるのではなく、保護者がどのように受け取るかまで考えた、一歩進んだコミュニケーションを行えるよう、促していきたい。

あおい幼稚園 職員自己評価 (令和3年度)



園長・主任評価 (令和3年度)

